

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4073500243
法人名	社会福祉法人 千草会
事業所名	グループホーム マイネスハウス ひなた庵
所在地	福岡県前原市高上字袖ヶ原171番地 (電話) 092-329-1500

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	20年 9月 26日
評価確定日	20年 10月 30日

【情報提供票より】 (平成20年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	12 人
常勤	12人, 非常勤 0人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	準耐火鉄骨 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	1ヵ月1,500 円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年 8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	62 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 太田脳神経外科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雷山、加也山を一望する風光明媚な高台に位置し、特別養護老人ホーム等の母体施設に隣接した日本家屋風の戸建てである。法人で地域住民とともに夏祭りを開催したり、コスモス畑造り、竹の子掘り、ボランティアの訪問等、事業所が理念としている「地域との交流」が事業所内外で頻りに図られている。また、自然環境が豊かな地にあり、事業所内にも池のある中庭や外庭を配し、鶏、アヒルといった小動物を飼っており、ゆったりと豊かな時間の流れで生活している雰囲気を利用者の表情から伺える。母体施設との協働、協力病院との連携も図られており、24時間安心して生活ができる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善点「思いや意向の把握」「チームで作る利用者本位の介護計画」については、全職員間で話し合いがなされており、かかりつけ医や家族等の意見を聞きながら、ミーティングやケアプラン会議でプランに反映させている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回評価を踏まえ、全職員で今回の自己評価をミーティングで行い、更なる改善点を話し合いながら、共有化・意識化を図った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に、地域包括支援センターをはじめ地域住民、家族代表の参加を得て実施している。利用者の現状・事業所活動が報告し、委員からの意見・要望・質問等をもらっている。外部評価の改善課題についても会議では話し合い、経過を報告し、改善に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族の要望、意見、苦情等は家族の来訪時を中心に、聴き取りや利用者個別の連絡帳を通して行っている。苦情については第三者窓口の紹介と法人設置の第三者委員を公表している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	母体施設とともに、利用者と地域ボランティアと一緒に、コスモス畑造りや竹の子掘り、夏祭り、敬老会等の法人内外の行事に参加しており、防火訓練、外出傾向のある方の見守り、野菜のおすそ分け等地域住民との日々の交流や連携も頻りに図っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念が「利用者がそれぞれの役割を持ち、家庭的な環境と地域住民との交流のもとで・・・」となっており、地域密着の視点が含まれた理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を控室に掲示し、ファイリングを所持しながら、日々振り返りができるようにしている。また月1回のミーティングで具体的なケアについて意見統一を図り、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、事業所の行事案内を回覧しており、地域の花見や敬老会等の行事にも参加し、地域との交流を積極的に図っている。母体施設と一緒に幼稚園、小中学校、専門学校生等の訪問受け入れを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ミーティングで全職員で話し合い、意見を集約させながら取り組んでいる。前回評価の改善点について、「思いやりや意向の把握」「チームで作る利用者本位の介護計画」については、職員間で話し合いがなされており、介護計画に反映されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、現状や今後の活動計画、評価への取り組み状況等を報告している。委員からリハビリ訓練や転倒防止に関する意見や要望等を貰っており、それを入居者のケアに反映している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が市の高齢者福祉事業運営協議会の委員を務める等、行政との連携を常々図っている。また、母体法人とともに介護者教室を受託している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人全体の会議の中で、職員に対して資料を配布して研修を実施しており、家族や利用者に対しても、利用時やケアカンファレンスの際に、必要に応じて資料を渡して説明を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしやすさや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時や電話連絡によって利用者の暮らしやすさや健康状態等を報告している。金銭管理については、利用者の殆どが自己管理を行っているため、利用者毎の連絡帳を居室に準備し、領収書等も貼って収支を伝えている。事業所便りは季刊号として発行し、行事風景や各利用者ごとに出来事を記入して郵送している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、来訪時には声かけを行い、積極的に家族等の要望、不満、苦情等を聞くように努めている。第三者相談窓口は利用時に説明し、施設内にも連絡先を明示している。転倒防止や嚙下訓練等、家族からの要望を運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体施設間の異動は、職員の要望を聞き入れて行っている。各ユニットは中庭を囲んだ造りになっているため、利用者、職員とも自由に交流でき、馴染みの関係が築かれている。職員の離職の際は、引き継ぎの時間を設け、利用者へのダメージが極力少なくなるよう配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては、お年寄りを大切に思える人を選考基準にしており、年齢、性別等を基準にはしていない。育児休暇、介護休暇等を設けており、職員の家庭の状況に応じた勤務時間も相談に応じている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>内部研修や法人での全体研修で、人権に関する研修を行い、職員全員に資料を配布している。研修記録や資料は事業所に保管している。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間計画に基づき、外部研修や法人全体研修、事業所内研修を実施している。法人全体の研修や事業所内研修は勤務以外の職員が参加する仕組みを作っており、外部研修の伝達研修も行われている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者ネットワークに加入し、県内のグループホーム協議会地区勉強会に職員が参加している。また、他事業所へ訪問し、勉強会に参加したり、意見交換をする機会を設け、サービスの向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人内のデイサービスやショートステイの利用者、事業所利用者に面会に来られた方が利用する事が多いので、利用前に家族とともに再度見学していただいている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理、洗濯物の畳み方や干し方、植え木の剪定等、利用者の一人ひとりの得意分野や役割を発揮してもらいながら、職員と利用者がともに過ごし、学び、支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わりの中で利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや希望を把握・支援している。意思疎通が難しい利用者は、表情や仕草、単語等を察するとともに家族等からも情報を得て、本人の思いに沿うような支援を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>かかりつけ医の意見を踏まえ、家族や本人、担当職員、介護計画作成担当者で話し合う機会を設け、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6カ月に1回、また利用者の状態の変化や状況に応じて介護計画を見直し、家族に署名、押印を貰い同意を得ている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の入院時には家族及び医療機関と協議しながら、早期退院に向けた支援を行っている。通院や送迎等、必要に応じて個別支援をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を尊重し、今までのかかりつけ医や事業所の協力医での受診支援を24時間体制で行っている。かかりつけ医への受診や付き添い等、家族の希望によりそれぞれ柔軟に対応している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針があり、利用時や折に触れて家族、かかりつけ医、職員と話し合う機会を設け、共有を図っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングや研修等で全職員の意識化を図り、声かけや対応についてプライバシーに注意しながら、ケアを実践している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、買い物、散歩等、一人ひとりの体調や思い等に応じた支援を柔軟に行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は一緒に準備・食事・片付けを行っている。食事は同一テーブルで、同じものを食べながら、介助したり、会話している。個別に嗜好を聞きながら、一週間分のメニューを作成して、食べることの楽しみを見出している。また重箱で食事を提供する等、しつらえの工夫もしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿い、入浴できるよう柔軟に支援している。入浴を拒否をする人については、タイミングを図りながら、声かけを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの出来ることや得意なことを把握し、調理、食事の片付け、動物の世話、植木の剪定、らっきょ漬け等をはじめ、生け花、化粧、マッサージ、月1回家族も招待しての食事会等、楽しみ事も含めた支援を個別に行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の体調、希望等に配慮して、概ね毎日の散歩、週2～3回の買い物等、戸外に出かけられるように支援している。遠出が難しい利用者に対しても、週1回の園外への散歩、年数回のドライブの際に買い物の機会を設ける等、支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関の施錠はしていない。外出傾向のある利用者を全職員は把握しており、見守り等を行っている。近隣住民には、見守り等の協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。母体施設とともに、年2回消防署の協力による避難訓練を地域住民と一緒に実施している。非常時の防寒用品や排泄用品、非常食等を準備している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量の記録が、全利用者分ある。利用者一人ひとりの嗜好を聴きながら、一週間分の献立を作成し、管理栄養士にカロリー等の指導をその都度受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を眺めながら歩くことができ、利用者が一休みできる椅子や掘りごたつ、ソファ等が所々に準備されている。季節の花や古民具、和風の照明等、落ち着いた家庭的な雰囲気、居心地よく過ごせるように配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の一人ひとりの馴染みの家具や小物等を持ち込み、写真等が飾られている。利用者の状態に応じて、畳にカーペットを敷く、簾をかける等、本人が心地よく過ごせるように工夫をしている。		

※ は、重点項目。